年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：2022 年　　4 月　11 日
● 事　業　名　：　パープルエイド・ブルークロス運動
● 資金分配団体　：　更生保護法人　日本更生保護協会
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人 TFG
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
①アウトリーチによって若年女性が団体の存在を知り、サポートを受けている状態。	①相談カードを配布した数	①初期値（150 枚/月）より６０枚増加	2021 年 7 月	９月　０枚（休止） １０月　約１２０枚 １１月　約１２０枚 １２月　約１２０枚 １月　約１２０枚 ２月　約１２０枚 ３月　約１７５０枚 １回の夜回りで３０枚前後を配布している。	3

				コロナによる規制は解かれたものの、コロナ前よりも人出が減少し、さらに冬季のため公園の人出も少なかった。 ３月は約１６００枚を関係機関から福岡県内の中学校等に配布して頂いた。 今年度は関係機関からさらに他の機関を紹介して頂き、配布枚数を増加させる。	
	②相談を受け付けた件数	②初期値（10 件/月）より５件増加	2021 年 7 月	９月　１件 １０月　４０件 １１月　２８件 １２月　７件 １月　１２０件 ２月　１３９件 ３月　１１０件 計４４５件	2

②福岡県内において、パープルエイドとブルークロス運動が連動して実施した啓発、講演会活動により、教育・行政・福祉関係者・地域住民が、若年被害女性の現状や抱えている課題について認知・理解する。	①ブルークロス運動の開催回数	①初期値（2 回/年）より 1 回増加	2021 年 7 月	年 1 回 コロナ禍のためオンライン（一部対面）による開催	3
	②ブルークロス運動の参加者数	②初期値（400 人/年）より１５０人増加	2021 年 7 月	1 回に９５人 コロナ禍のためオンラインによる開催 開催準備に時間がかかり、周知が十分ではなかった。 オンライン配信についても技術的な準備が十分でなく、当日になり配信方法を変更することになってしまった。 今年度は、夏頃までに開催の目処を立て、技術面についてもテスト配信を行なって当日にトラブルが起きない工夫をする。 周知方法については、前回は団体インスタグ	3

				ラム、開催場所の大学、福祉関係のポータルサイト等を活用したが、今年度については県内外の大学のボランティアセンターへの周知、関係機関に出向いて周知のお願いをするなどする。	
	③参加者へのアンケート調査	③調査は毎回行い、アンケート結果を分析し、活動への反映と報告書の作成を行う。	2021 年 7 月	アンケートは実施した。 アンケートの回収数は１２にとどまった。 会場で参加した学生に対してもアンケートのお願いを呼びかけたが、その場で回答してもらう方法を取らなかったため、回収数は少なかった。 次回開催時は、対面の場合は紙での回答、もしくはアンケートを回	2

				答する時間を設けるようにしたい。 回答では、ボランティアに参加したいという回答が目立った。対応が難しいケースも多いため、まずはアウトリーチ活動やブルークロス運動などに参加してもらい、少しずつ若年女性の現状を学んで頂きながらレギュラーメンバーとして活動をしてもらえるスタッフを確保していきたい。	
③ブルークロス運動の参加者や各関係機関が（仮）若年被害女性支援について考えるネットワークの会員となり、迅速なつなぎ支援や活動の発展のための勉強会などが開催できる状態。	①連携をしている団体の数	初期値（30 団体）より 20 団体増加	2021 年 7 月	現在、１９団体と連携している。初期時には連携していた団体であっても、コロナ禍もあって連絡頻度が減り、定期的なやり取りがなくなってしまった団体が複数ある。	3

				今年のブルークロス運動を開催する際に当初の連携団体に対しても開催の案内を行い、再度連携関係を築けるようにしたい。	
④若年女性の「生きづらさの評価指標」を作成する。	「生きづらさの評価指標」の策定状況	「生きづらさの評価指標」が完成し、活動１から３で活用できる状態になる。	2021 年 7 月	「生きづらさの評価指標」を作成して、相談を受けた女性の支援を検討する際の指標として活用できている。	3
⑤先駆的に女性の支援活動を実践する団体と情報交換会を行う。	①情報交換会の開催	①概ね５団体が参加 ②年に１～２回、Zoom などのオンラインを用いて情報交換会を実施	2023 年 1 月	２回開催した。 1 回目：パープルエイドの活動を紹介して、少女の置かれている状況について意見交換を行った。 2 回目：パープルエイドの活動の実際や多く寄せられる相談の内訳等について情報交換を行	2

				った。 これらのネットワークを核に、さらに広げて全国で先駆的に取り組む団体などと情報交換の場を設けていく計画である。 なお、R2 年度は、自団体での開催は出来ていないが、他団体と SNS による情報連携は出来ている。 今後、ネットワークを形成することで、遠方（例えば、関東や関西）にいる少女から相談があった場合に、当該の地域の社会資源を紹介したり、つないだりすることが可能になる。 今後も SNS を活用して情報連携を密にしていくとともに、情報交換	

				会などの開催に向けて準備を進めていく。	

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
・ 協力団体と連携し、２０代女性の立ち直り支援を行った。女性は外国籍であり、同居している母のパートナーから暴力を受けていた。当団体で数日間ホテル代を援助し、関係機関への繋ぎや、警察の窓口を教示するなどして女性の安全を確保することができた。 ・ 援助をしている若年女性の現状を知ってもらうため、民間団体の定期懇談会等に参加し、講演を行った。その結果、複数の団体が日頃から連携している施設や学校等で当団体のチラシや相談カードを配布してもらう機会を得ることができ、相談にも繋がった。
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

・　インスタグラムの更新頻度を増加させたことにより、当団体のページを訪れる人の割合が 1836％増加し、「インスタグラムを見た」と言って相談に繋がるケースが増加傾向にある。 ・　従来の他記式のアンケートを廃止し、インターネットを使用したアンケートに変更した。その結果、対面で会話は少なくアンケートを取ることができるようになった。

②　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☐自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 2.広報制作物等 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） ２０２１年　１１月２７日　ブルークロスムーブメント ２０２２年　３月６日　オンライン講習会（自傷行為への理解とその支援について）

④規程類の整備に関する報告

1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。

☑完了　　☐整備中
2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☑全て公開した　☐一部未公開　☐未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日： https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/
3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☐ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか

☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料　活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、3～4 枚程度）

ビックカメラ

RESOLA